

(84号)

中国シルク情勢（2017年9月）

日 絹 連

中国中織局（中国国家繊維商品検査機関）が8月15日にネットで「2017年度生糸品質分析報告書」を発表した。2016年に全国10省131社の製糸工場が申告した検定書から纏めた数字によると、全国の生糸品質の平均は4A15であった。その中でも四川省は4A80で一番良い品質であった。二番は浙江省4A48、三番は雲南省4A32であった。報告書には、生糸品質に一番悪い影響を与えているのは繭の質と生繭の製糸工程であり、繭の品質改善と製糸生産管理を強化することが一番の急務だと認識している。

8月28日、杭州では「毎日商報」の報道で、シルク産地である杭州の品質監視局は50社のシルクスカーフ商品を抜き打ち検品した。合格したのは50ロット中36点で、合格率72%であった。不合格の原因として、商品の品質表示が分かり難いものや、汗などによる堅牢度が不合格となったものが多かった。

9月4日に中国嘉興生糸取引所が取引について次のとおり評価した。

嘉興取引総合指数0.41%上昇し、終盤3,733.57となった。2017年9月25日渡しのB類生糸は、1日で900元/トンほど上がり、44.31万元/トンとなった。干繭は1日で1,100元/トンほど上がり、11.29万元/トンとなった。2018年3月25日渡しのB類生糸は、1日で2,100元/トンほど上がり、45.72万元/トンとなった。干繭は1,100元/トンほど上がり、11.27万元/トンとなった。

相場が引き続き上昇し、9月25日の生糸契約に前期の頂点に近づいており、広西の秋繭上市以来で買取が濃厚となった。宜州などの繭産地が先週より市場の値上げの見通しがつき、相場の上向きも濃厚で価格上昇が続いているが、価格が上がればリスクも上がる。人民元レート対ドルの中値が先週より241基点で上がり、6.5668元の上値となり14ヶ月ぶりの最高値となった。第4下半期の輸出速度にも影響を与えるのではとの見解である。

場外の5~6A経糸現物相場は既に48万元を超えて、49万元台へ突入した。関係者の分析によると、生糸1トンの相場は50万元台になるのではと予測されている。そうすると秋繭が9~10月に史上最高値となり、生糸の輸出価格も70ドル/キロ台へ上がる可能性が十分考えられるという説もある。

最近、中国各地で染色工場の汚染と廃水排出の取締り運動が幅広く展開されている。シルクプリント染工場が多くある浙江省と江蘇省では、先染織物工場への糸染め納期とプリント納期が大幅に遅れている。9月に入ってからも沢山の工場が再開の目途が立っていない。その解決のため、中国印染色協会は8月18日に全国各関係企業へ「汚水排出許可書申請及び紡績染色業許可規範意見書」を公示した。

以 上